

「桜の季節(3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

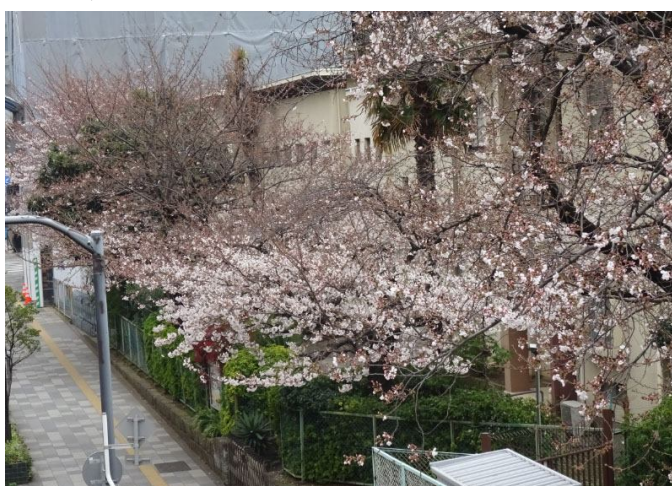
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

お茶の水女子大学前の「春日通り」正式名称は「国道254号線」という。池袋からは「川越街道」と愛称が変わり、成増・新座・川越・坂戸・小川町へと続いている。この国道の終点がどこか調べてみたら驚いた。寄居・藤岡・下仁田・佐久とたどり、終点は何と長野県の松本市。春日通りは、総延長250kmを超える長大な国道の一部だったのだ。



お茶の水女子大学の前に、歩道橋がある。春日通りをまたぎ、バス通学の小学生が毎日利用している。この歩道橋から見た桜が実に美しい。桜蔭会館と小学校の裏にある桜がよく見えるのだ。



私は毎年桜の時期になると、この歩道橋の上で桜を眺めるのを楽しみにしている。下から見上げる桜とちがって、上から見る桜というのはあまりない。枝のどのあたりの花が最初に咲くのか、上から見るとよくわかるのだ。



歩道橋の反対側には「ビー玉」がある。老夫婦が経営している喫茶店だ。本当は朝8時開店なのだが、私は毎朝無理に6時半に開けてもらって、モーニングセットをお願いしている。トーストが焼き上がるまでの間、歩道橋にあがって、桜を眺めることもある。4月に入って桜が散り始めると、時々この店の前まで、桜の花びらが舞ってくる。



遠目に見ると満開に見える桜も、近寄ってみるとまだ二分咲きぐらいだった。この桜は、梢の先端から咲き始めるようだ。枝の一番外側が一斉に咲くので、遠くから見ると満開に見えるのだろう。つぼみが桃色なので、樹全体は薄桃色に見える。